

【由利本荘市】
1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領においては、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等が、学習の基盤となる資質・能力であると示されている。変化が激しく将来の予測が困難である社会の中で、持続可能な社会の創り手となる児童生徒を育成するためには、多様な情報を正しく判断し、問題解決に生かす情報活用能力は重要である。

また、児童生徒の学習状況の的確な見取りを通じた個別最適な学びや、多様な他者を尊重し共に問題解決を目指す協働的な学びを進めるためには、1人1台端末を始めとしたICT環境の活用が効果的である。

対面での学び合いや多様な体験活動を重要視したこれまでの実践と、ICTとを最適に組み合わせ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指す。

2. GIGA第1期の総括

令和2年度に市内小中学校全児童生徒にタブレット端末が整備された。以前より教師による授業内でのICT機器の活用は進められていたが、児童生徒にとっても、学習のねらいを達成するための文房具の1つとして、タブレット端末の利用が効果的なものとなっている。

家庭での活用に関しては、フィルタリングソフトの導入やモバイルルーターの無償貸与などの環境整備により、各校の実態に応じて週末や長期休業中の課題としての活用を進めている。学校によっては、児童生徒への連絡手段の1つとして活用しており、ペーパーレス化等の学校におけるDXの一端も担っている。

一方で、タブレット端末の使用の際の破損及び経年劣化によるトラブルへの対応が必要であったり、校内無線LAN環境が不十分であったりする点が浮き彫りになっている。校内無線LAN環境については、現在、関係各所と協議し改善、充実を進めているが、より日常的、効果的な使用のためには最優先の取組事項と捉えている。

3. 1人1台端末の利活用方策

ICTの特性として、①多様で大量の情報を収集、整理・分析、まとめ、表現できること、②時間や空間を問わず各種データを蓄積、活用できること、③情報の発信と受信ができる双方向性があることが挙げられる。これらは、個別最適な学びや協働的な学びにも深く関わるものであり、言語能力や問題発見・解決能力等の向上にもつながる。

授業では、個々の児童生徒の思いや考えの発信及びデジタル教科書等の活用による個別最適な学び、学習支援ソフト等の活用による協働的な学びを推進し、また、児童生徒の日々の学習や生活の記録の蓄積や把握、多様な児童生徒への対応など、一人一人の状況を見取り、早期に指導に生かすためのツールとしての活用等、1人1台端末の活用を一層進める。